

日中道德教育研究会 北京市学校訪問報告書

平成 24 年 10 月

鳴門教育大学大学院 教育社会学研究室
報告者：横嶋敬行、玉木宏樹、付文婷、修嬌

1. 日中道德研究会の様子

2012年9月19日、北京師範大学で日中道德研究会が開かれた。日本から研究会へ参加したメンバー、発表題目は以下の通りである。

■日本からの参加メンバー

押谷由夫（昭和女子大学・教授）、伴恒信（鳴門教育大学・教授）、南本長穂（関西学院大学・教授）、関根明伸（国士舘大学・教授）、醍醐身奈（昭和女子大学・博士）、劉麗娜（昭和女子大学・博士）、郭ギョク（昭和女子大学・修士）、横嶋敬行（鳴門教育大学・修士）、玉木宏樹（鳴門教育大学・修士）、修嬌（鳴門教育大学・研究生）、付文婷（鳴門教育大学・研究生）

■目次

	表題	執筆者
1	一个时代的命题 一再论“教师德育专业化”	檀传宝 教授
	一つの時代的なテーゼ —再び「教師の德育専門化」を論じる—	中国北京师范大学
2	日本学校新教育课程中的道德教育以及当今课题	押谷由夫 教授
	日本の学校の新しい教育課程における道德教育と今日の課題	日本昭和女子大学
3	社会正义与弱势群体教育的道德社会学思考	贺晓星 教授
	社会正義と弱者グループの教育に関する一考察 ：道德社会学の角度から	中国南京大学
4	欧洲的市民教育和宗教教育的最新动向	伴恒信 教授
	ヨーロッパにおけるシティズンシップ・宗教教育の最新動向	日本鳴門教育大学
5	关于道德教育中若干基本问题的思考 —基于日本的经验与教训	饶从满 教授
	道德教育における若干の基本的な問題について —日本の経験と教訓に基づき	中国东北师范大学
6	高中生的学习观和道德意识	南本长穂 教授
	高校生の学習観と道德意識	日本関西学院大学
7	人是目的：权利视野中的道德教育	王啸 副教授
	人を目的とした：権利の観点から見た道德教育	中国北京师范大学
8		関根明伸 准教授
	日韓における道德教育カリキュラムの比較研究	日本国士舘大学
9	高中阶段德育的探讨 - 基于全球动向的思考-	醍醐身奈 博士生
	高校生期における道德教育の探求 - 世界の動向を踏まえて -	日本昭和女子大学
10	探究为推进中日友好的道德教育 —论以3.11东日本大地震为契机中日德育教育交流的可能性—	刘丽娜 博士生
	日中友好を推進する道德教育の探究 —東日本大震災を契機にし、日中友好の可能性についての研究—	日本昭和女子大学, 中国留学生
11	师生对话的关系性与教育性—课堂中师生对话的问题与出路—	郭冰 博士生
	教師と生徒の会話における関係性と教育性 —授業中の教師と生徒の会話における問題と今後の方向性—	中国北京师范大学

■研究会の様子

ここでは、日本の押谷教授と中国の檀教授の発表の要約と質疑応答についてまとめることで研究会の様子を報告する。

日本からは、まず押谷教授が現在の日本の道徳教育の現状として、新教育課程における道徳教育の特徴と、今後の課題についての発表が行われた。改正教育基本法では、「人格の完成を目指す」ことを教育の目的としており、そのための基盤となるのが道徳教育であるとし、道徳教育の充実のなかでも「各教科における道徳教育の充実」「要としての道徳の時間の充実」「道徳的体験としての特別活動の充実」「学校、家庭、地域が連携した道徳教育の推進」についての四点の重要性について述べた。

今後の課題として、学力育成に比べて道徳教育は必ずしも重視されているとはいえない現状を踏まえつつ、道徳性を高めることで学力の向上が期待されることやいじめ問題の改善のための道徳教育の必要性に触れ、以下の3点を今日の大きな課題として取り上げた。第一に、道徳教育は教師自身の課題として自覚する必要があるということについてである。道徳教育は子どもたちの課題であるだけでなく、それを行う教師自身にも確かな道徳観が必要であり、経験的にも学問的にもしっかりと道徳教育を行える教師が必要であると述べた。第二に、道徳的実践力と道徳的実践を響き合わせる指導の充実についてである。道徳教育は自律的に道徳的実践のできる子どもの育成が必要であるととし、そのためには内面的な力の育成が重要であると述べた。そのためには、総合単元的道徳学習が必要であると述べている。第三に、道徳の時間を特別教科とすることについてである。道徳教育の充実のためには、教育課程における確実な指導と教材・教具の確保、すぐれた指導教員の養成・確保、現職研修の充実、研究者の養成、研究の充実が不可欠であるとしている。そして、現在の道徳教育は教科ではないという位置づけであるが、それを特別教科とすることで一層の充実を測ることができると述べた。以上のように、現状と課題を踏まえたうえで今後の道徳教育についての問題提議がなされた。

また、日本の先生方・学生は、道徳教育の現状についてヨーロッパや韓国などの諸外国との比較や中学生や高校生を対象とした調査研究など、道徳教育に関する実証的な研究を中心に発表された。諸外国との比較や調査研究からは、道徳教育の動向や概念をより詳細に描き出し、多角的な視点から道徳教育を捉えることができた。

中国の檀教授は、今日の世界規模での徳育実効性の低下の原因の一つが「教師の徳育専門化」を軽視し続けたことにあり、教師の徳育専門化の必要性和切実性が世界的なテーマであると論じたのち、教師の徳育専門化のというテーマを提出する理由、教師の徳育専門



化のあるべき視点と内包、教師の徳育専門化とはどのようなものなのかという三つの副題から論じた。

教師の徳育専門化のというテーゼが必要とされる理由については、中国における現状などに触れつつ、徳育（道徳教育）は教育全体における普遍的で永久的な要であると道徳教育の意義を確認し、そして教師の徳育専門化をおこなうことで徳育の概念を専門的、理性的に定めれば、すべての教育者は徳育教育者として教育の本質を果たすことができると述べている。そして、教師の新たな専門性を向上させるためにも徳育を専門的視点とすることが一つの時代の要求であるとし、教師の徳育専門化の必要性を説いている。

教師の徳育専門化をどのように実現するかに関しては、以下のように述べられている。第一に、教師の資格証明書制度（教員免許状の制度）において、徳育（道徳教育）の専門課程の履修を義務付けることである。同時に、資格更新の際に徳育専門化についての具体的な要求（専門的な道徳教育のあり方について学ぶこと）を含めることで、教師の徳育専門の生涯学習を促進することができると述べた。第二に、教師のみならず校長や教育局長、部長にも徳育専門知識の学習を要求あるいは義務付けることが必要であるとしている。また、教師の徳育専門化に関する諸問題を理論的に明らかにしなければ、さらに有効的な教師の徳育専門化の実践課程を進歩させることはできないとし、大学においても教師の徳育専門化に関する学術研究を大いに強化することを提言している。第三には、教師の徳育専門化に関する「学校モデル」の探求と構築が必要であるとしている。

同様に、中国側の諸先生方からは道徳教育を理論研究から鋭く追求した報告が多く見られた。

研究発表後の質疑応答ではそれぞれの研究に対する質問や現代の道徳教育に関する議論が交わされた。これからの道徳教育の発展のためには、押谷教授の発表でも述べられたように。教育課程における確実な指導と教材・教具の確保、すぐれた指導教員の養成・確保、現職研修の充実、研究者の養成、研究の充実など、特別教科としてより専門性を高めることの必要性が確認された。また、カリキュラム面のみならず、子どもたちに道徳的な資質を身に付けさせるためには、道徳的な価値観の内在化をいかに行うかといった視点が重要であり、そのためには道徳的な実践も重要であることなどが議論された。

研究会は報告においても質疑応答においても大変充実した内容となっていた。大まかな流れではあるが、研究会の様子に関する報告は以上である。

■訪問先の学校紹介

◀ 北京師範大学朝陽附属中学校について ▶

□創立

2009年 北京師範大学朝陽附属中学校創立

□紹介

北京師範大学朝陽附属中学校は北京市の朝陽区に位置し、近くにはオリンピック国家森林公園がある。朝陽区は発展が速い区であり、人口も大きな変化がある。学校には宿舎の施設なども完備されている。北京師範大学の教育理念を受け継ぎ、北京師範大学と朝陽区の社会資源を利用し、特色がはっきりとした、よい文化雰囲気のある学校を作りを目指している。生徒に適合する教育を与えることを理念として創立された。

□児童の実態

- ・北京師範大学朝陽附属中学校の生徒は主に朝陽区の子供である。
- ・生徒数 約 500 人
- ・総クラス数 30 組

□教育方針

- ①北京師範大学の教育理念を受け継ぎ、全面的な発展ができる人材を育成する
- ②学生の個性特徴を集める
- ③高レベルの教師チームを建設する
- ④現代教育技術と課程を整合することを強化し、学校のレベルを昇進していく

□教育構想

- ①責任を負う、“自覚行動”養成教育：社会責任感を養成することを中核として、思想品德教育を展開していく
- ②“読むことと書くことを一体化し、授業の内外を結び合わせる” 国文教育：授業の中に学生の主体地位と探索精神を尊重し、試験を受けることを中心とする教育を捨てる。
- ③“コミュニケーションを中心とする” 英語教育
- ④“体育、芸術 2+1”の体育と芸術教育：学生が卒業するまで 2つの体育技能を持って、1つの芸術技能を持つ
- ⑤人文教育と科学教育を中心とする校本課程教育



中国の有名な教育家や書道家、国学家が書いた書道で、学生たちに「智・勇・勤・愛・誠」を身に付けて欲しいということを意味している。

北京師範大学朝陽附属中学校の校章
校舎内のあらゆる場所にこの校章が掲げられていた。



北京師範大学朝陽附属中学校の校歌
題名は「生命に花が咲く」である



授業の計画表 学校の成果

授業の計画表は、課程功能と多元的課程の2つから紹介している。

北京師範大学朝陽附属中学校の成果(一例)

北京市合唱団コンクール第一位 2012/04

演劇大会において朝陽区第一位 2012/04



郊外実践活動とクラブ文化祭について

- ・クラブ文化祭の紹介
- ・学校にあるクラブや学級にあるクラブについての紹介



昨年度に北京市全土で行われた中学生対象の高校統一試験の北今師範大学朝陽附属中学校の正徒の上位 47 名の成績と進路先の高校の名称が書かれている。



北京師範大学朝陽附属中学校の五大祭りについての紹介

- ・4月の読書祭りについて
- ・5月の日光体育祭について
- ・10月のクラブ文化祭について
- ・11月の英語をテーマにしたクリスマスカーニバル
- ・新年歓迎祭



課程の建設を強化して、学生的情操を陶冶
(左)学生たちの親が主体となって授業を行う過程の紹介

(中)子どもたちが主体となって授業を行う課程の紹介

(右)有名な教師を招いて授業を行う課程の紹介



中国では9月10日が教師の日であり今回訪問した日が9月20日と日程が近かったため子どもたちの教師に対しての感謝の気持ちを表した作品がたくさん飾られていた。

内容の一例

- ・私は先生を愛しています
- ・身体に気を付けてください



「千里の道も一歩から」と書かれている



(左)国学堂は日本でいう書道室にあたる場所である

子どもたちはここで習字を習う。

(右)この国学堂に飾られていた孔子の画である

中国ではこのような孔子の画や彫刻がたくさん見られた



(中)の写真は北京師範大学朝陽附属中学校の図書館の入り口に飾られていた作品で、その説明が書かれているのが(右)の写真である。
 (中)の写真の意味は「本は、開けることで利益を得ることができる」で、中国の現在の有名な書道家李先生が書いた作品である。



この書籍は魯迅の全作品である。魯迅は中国で有名な小説家である



これは北京師範大学朝陽附属中学校の図書館の一部である。
 見て分かるように、少し変わった造りとなっている。

《 北京第十八中学校 》

□歴史

- 1951年 北京第十八中学校創立
- 1978年 豊台区の重点中学校として確立
- 2005年 北京の模範高校として確立

□紹介

北京第十八中学校は北京南部の方荘住宅地区(昔、北京の富裕な人が住む地域と呼ばれたところ)に位置する。また、中学校と高校を一つに結びつける中高一貫校である。校区は 2 つあり、1 つ目の方荘校区は中学校と高校を一体化する実験教育方法を実施して、2 つ目の西馬金潤校区は小人数学級と分層教学を実施している。学校には図書館、教室、ゴルフ場などがあり、施設も完備しており、生徒の科学技術の知識力と人文素養を養成することを重視していることから、近年の校本課程の中に、ゴルフ課や文学鑑賞、気象観測、トランプのブリッジ課などの課程を設立した。

授業数は毎日、朝 7 時から午後 3 時 50 分までの 8 コマ授業。1 コマの授業時間は 40 分で、学校の教員数は現在約 200 人、その中の 40 人が特級、市、区の優秀な教師で、70 人が高級教師である。

□児童の実態

- ・生徒の多くが方荘の東部地域に住んでいる子どもたちだが、他の地域から登校している生徒もいる。
- ・生徒数 約 1700 人
- ・全クラス数 45 組

□他国との交流

北京第十八中学校ではイギリスやアメリカ、韓国などの学校と交流している。他国との交流を通して、国外の先進教育方法を導入し、学生が全面的に発展していくための広い視野を提供している。

□特色ある学校づくり

- ・数学の方面…教師に実践と知識力を高めることを目的として科学研究活動を展開している。
- ・徳育の方面…“五自”（自信、自尊、自主、自立、自強）の教育、“三特”（体育特色、音楽特色、科学特色）を特色とすることで、学生の言動や行動が文明化となり、生活に恩を感じ、法律を尊重し、持続発展することができる人となれるような教育の展開。



これも教師の日の先生への感謝が書かれている子どもたちの作品の一部である。



中国で活躍している人たち
北京師範大学に入学していたが途中退学しその後大手電子商業会社を創設している第76代孔子の子孫や、中国トップのネットワークゲームの社長、地震の学者が紹介されている。



これは、北京市青少年法治文艺大会のポスターである。



教室後ろの黒板には、
 理性愛国…「尖閣諸島のことでたくさんのデモが行われました。それと同時にたくさんの暴動も発生しました。多くの国民はそれが愛国の表現と考えているが、それは間違った考えである。正しい方法で愛国しましょう。」

- ・デモには参加しない。
- ・自分の安全に危害がある活動には参加しない。

このようなことが書かれていた。



右のオレンジ色の紙は学校の活動で
 手に入れた賞状である。

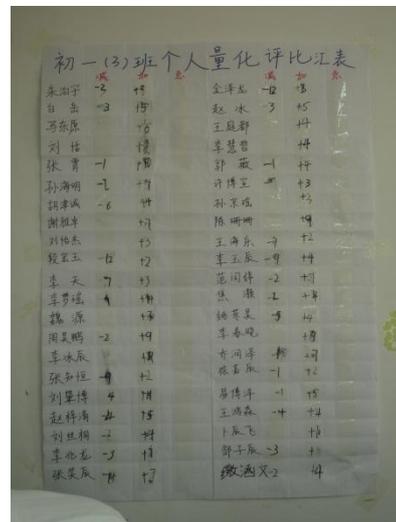
左には子どもたちに求める態度が書
 れている。上から、

- ・「静敬淨竟」
- ・真面目な態度で授業をする
- ・真面目な態度で宿題する
- ・真面目な態度で間違いを改正する



上は授業の時間割である。中国は授
 業が40分ということもあり8時間
 目まで授業があり、日本でいう道徳
 教育は1週間に2コマ(政治)行われ
 る。

下は掃除の分担表である。



これは子どもたちの評価である
 良いことをしたなら加に+1
 悪いことをしたなら減に-1
 と加減にそれぞれ、記入してい
 く仕組みとなっている。

◀ 北京師範大学附属実験小学校 ▶

□創立

1958年 北京師範大学附属実験小学校創立

□紹介

北京師範大学附属実験小学校は北京師範大学の校内にある小学校で、教員数の数は110人である。

北京師範大学附属実験小学校は“教育を受ける人々への奉仕”という理念を承って、北京師範大学の教育学科と心理学科の研究優勢を利用し、“実験”を特色として、教育体制と教育方法の改革実験を進め、必修課と課外趣味選択履修課を一緒に実施する教育体系を創造した。学生は科学、体育と文化の活動を通して、才能を現す特徴を発揮することができる。北京師範大学附属実験小学校は教師チームの建設を重視し、教師の教育理念を続けて更新し、教育研究や教育方式の改革の検討をよく行っている。

□児童の実態

主に学生は北京師範大学の教師の子供と中国教育部の職員の子供である

生徒数 1800人

□国際交流活動

北京師範大学附属実験小学校では、国際交流活動を通して、学生たちは自分の生活独立力を養成し、それと同時に人とコミュニケーションしていく能力を養成する。

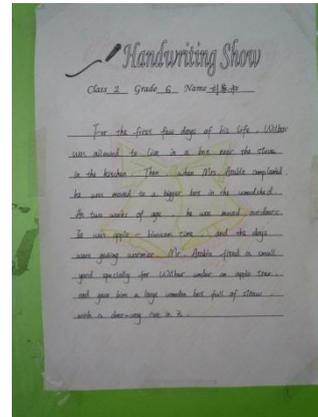
◇交流先の小学校(一例)

- ・シンガポールの小学校
- ・昭和女子大学附属小学校
- ・新潟大学附属小学校

*北京師範大学附属実験小学校



この金色の扇には中国の四大古典の1つである紅樓夢(中国の四大古典は他に三国志・水滸傳・西遊記)の詩が書かれている。



夏休みの英語の宿題
日本の日記のようなもので、その日の天気や、何をしたかなどが書かれている。



これは数学の日記で、生活の中にあるものや、デパートで一日に購入したものを、数学の理論を使って書いている。



6年生の国文(日本でいう国語)の授業の夏休みの宿題の優秀作品



4年生の夏休みの数学の宿題

(内容の一例)

- ・ 数学の自主学習の原則と基本方法について
- ・ 数学の教科書の内容整理について
- ・ 数学小論文



アメリカのネヴァダ州の小学校との交流会の様子。

国際交流をし、視野を広げ、自分の修養の基準を高く持つことが大切であると明記されている。



「遠い国からようこそ」と題した、

日本、アメリカ、シンガポール

韓国との交流会についての紹介

■「北京精神 愛国・創新・包容・厚德」について

この「北京精神」は北京市各地や訪問した小学校、中学校で随所に見られた。この北京精神は2011年11月02日に北京市で公布された。これは首都人民の長期発展建設実践過程の中で精神の財産の総括とまとめを形成している。

また、「北京精神」は「愛国・創新・包容・厚德」といった4つの観点から成っている。

□愛国

北京精神の核心であり顕著な特徴である。北京市民は政治を検討し、物事の成り行きを損なわないように気を付け、正しい性質をしっかりとうちたて、貢献を重視する時代精神を持つことを表している。

□創新

北京精神の神髄である。創新は民族進歩の精神であり、町の活力の源である。北京市が物事に積極的に取り組み、進歩を追い求めていくという精神状態を表している。

□包容

北京精神の特徴である。異なる国、民族、地域の人たちは北京で発展していく機会を探ることができることを表している。

□厚德

北京精神の品質である。北京は長い歴史があるので美徳が残っている。世界の町を建設する過程の中で北京は伝統的な美徳を発揚し続け、社会主義の先進文化を建設し、友愛、貢献、互いに助け合う精神を発揚する。人類の文明・文化の配慮の内面的な品質を表している。



学校に掲示してあった北京精神に関する掲示物。



空港にあった北京精神の文字。歩道橋やビルの電光掲示板など、街のいたるところで北京精神の文字を目にする。

■北京師範大学附属実験小学校で行われていた
インターネットに関する道德教育の授業分析

ここでは北京師範大学附属実験小学校において参観した道德教育の授業について報告する。中国には小学校の低学年に「思想と生活」、高学年は「思想と社会」という教科があり、これが日本の道德の時間にあたる。参観した授業は同小学校6年生の「思想と社会」の授業である。



授業のテーマは“健康的にインターネットを使うためにはどうすればよいのか”である。中国においても日本と同様に、インターネットは生活の一部として広く定着している。インターネットの世界は人々の生活を充実させ視野を広げるものでもあるが、一方ではさまざまな社会問題を発生させた。例えば、学生がインターネットに夢中になり学業がおろそかになった事例や、インターネットの世界に浸かりすぎたがゆえに他人との交流が困難になってしまうなどの現象がみられた。これらのインターネットに関する問題を防ぐためにも、インターネットを正しく使用することができるよう教育することが道德教育を通じて行われていた。今回授業を観察した担任の王先生は教科書と自分の経験をつなげた教材を用いて授業を行っている。

【 自己の経験からインターネットのメリットを考える 】

導入として、王先生は子どもたちにインターネットに関するメリットについて考えさせた。また、単一的に子どもたちに考えさせるのではなく、グループ形式で検討させ学生たち。この時王先生はより多くのメリットを考えさせるために、

*王先生の発言

王先生：一番多くのメリットを書いたチームが勝ちです。

もう5つのメリットを書いたチームもいます。

このチームは今6個のメリットを書いています。

といったように子どもたちに競争意識を持たせるような発言をし、子どもたちの活動意欲も促進させていた。その後、子どもたちに発表をさせた。

インターネットのメリットについて10個以上書いたチームもあった。

*インターネットの利点について

1. 知識が勉強できる
2. 資料を探ることができる
3. 大脳に知識を充実する
4. 教育方面の知識が把握できる
5. 友達と連絡できる
6. 視野を広げることができる
7. チャットで友達ができる
8. クラスのメールボックス
9. 他国の友達と連絡できる
10. 書きぶりを鍛える
11. 自己の発展ができる
12. ゲームができ、漫画が読める



これらのことから子どもたちはインターネット利点について自己の能力の向上のための一つの手段であると考えていることが分かる。インターネットは自分たちの知らないことをたくさん知ることができ新たな知識を得ることができるシステムである。その反面ネットで遊ぶことに関するメリットについては消極的な考えであることが分かった。

【 中国での実話をもとにインターネットのデメリットを考える 】

ここで中国で実際にあった話をもとにインターネットのデメリットについて考えさせた。まず王先生は、自らが遭遇した話を子どもたちに話した。

*話の内容

何年か前に、私(王先生)の生徒だった超ちゃん。超ちゃんは頭が良く、賢いし、頑張り屋で、授業の時はいつも瞳が輝いていました。しかし、時間がたつにつれて、あの輝く瞳が見られなくなりました。原因も不明です。授業の時に頑張る様子も見えなくなりました。座ってぼんやりしているだけです。何かを書いていたので近づいて見てみると、超ちゃんはゲームを描いていました。

一年後、超ちゃんは日記にこのようなことを書いていました。

「私はいつもインターネットに姿を見せています。インターネットをすることが好きになりました。時には十時間以上ずっと座ったままで、インターネットを使っています。さらに時々我慢ができなくなり徹夜でパソコンを開けてインターネットを使っています。昼の私は元気がなく落ち込んでいるような様子ですが、パソコンを使うとすぐ元気になります。インターネットに夢中になり、インターネットの虫になりました。インターネットは裏表のある刃です。この刃によって私は殺されましたが、血は出ていません。」

元気があった子どもだったが、体や頸椎などの病気になってしまいました。眼鏡もかけ、

度数はかなり高いものでした。友達を作ることもしなくなり、クラスの中に友達はいませんでした。この子は自分の世界に溺れてしまいました。

次に、王先生は教科書に書かれている内容を紹介した。

***教科書に書かれている内容**

呉さんはインターネットの暴力ゲームが大好きです。同時に人を殺すゲームをしています。技術は下手で、いつも負けていました。隣にいた人が呉さんに嘲笑すると、呉さんがナイフを持ってきて、この人を殺しました。その後もゲームをしおり、警察が到着したら意識を取り戻しました。人を殺したり、刑務所に入るなどの統計を取ると、少年犯罪において、ゲームまたインターネットが原因していることが一番多いです。

また王先生と生徒 A の会話を紹介した。

***王先生と生徒 A の会話**

生徒 A：この人がいつも暴力ゲームをして、自分に良い影響を与えなかったから、このような悲劇が発生してしまった。

王先生：つまりこの人は、心が曲がってしまい現実とインターネットの世界が混ざり合いになってしまったのですね。

この対話を見ると教師は生徒 A の発言に対して他の生徒たちに足りない部分を補充しながら説明している。

【 インターネットに関するクラスの現状について知る 】

王先生は次の内容に進む前に事前にクラスの生徒から調査した内容とその結果を紹介した。その事前調査の内容は以下のものである。

***クラスの生徒のインターネットに関する調査（全 38 人）**

1. あなたはよくインターネットをしていますか？(32)
2. インターネットをするとき、よくゲームをしたり友達と話をしたりしますか？(14)
3. あなたは授業が終わった時、ゲームに関する宣伝用のパンフレットやカードなどを収集しますか？(4)
4. あなたはネットワークに関係することを討論することが好きですか？(8)
5. あなたはインターネットをするに関して両親と言い争いますか？(2)
6. あなたはインターネットをするとき、家族に邪魔されることに対してとても悩んでいますか？(5)
7. あなたはインターネットをすることに全神経を集中し、パソコンを閉じた後も、インターネットするときの構想を考え続けますか？(6)
8. あなたはネットを利用することに対して減らしたり抑えたり止めたりすることができない(5)

この調査結果から見ても分かるようにクラスの大半の生徒がインターネットを多用している。その中の半数が友達とのやりとりやゲームをすることに利用しており勉強することとして利用していない。さらにインターネットを止めたり、抑えたりすることがなかなかできない生徒も 5 人おり、多少の生徒に対して既にインターネットが危害をもたらしていることが分かる。

また、この結果から今自分たちがどのような目的でインターネットを利用しているのかについても知ることができる。王先生はこの調査を利用して、学生が自発的にインターネットのデメリットについて考えることができるように導いた。同時に、この問題に対して、ただメリットやデメリットについて考えるのではなく、模擬訓練を通して、その背景から考えさせる方法を行っている。

この模擬訓練も 2 人でチームとなって行っている。このような模擬訓練を通したパートナー教育を行うことで、子どもたちが道徳的な価値観を獲得することをねらいとしている。



【 子どもたちが考えるインターネット依存への対策法 】

最後に、インターネットに依存しないようにするための対策法について考えた。ここでもグループとなり対策法について検討した。以下は子どもたちが考えた対策法である。

- *子どもたちが考える対策法
- A：第一対策法はインターネットをする前に、任務を明確にします。
インターネットをする前に 2 分間、インターネットで何をするのか考えます。
そしてそれを紙に書きます。
何をしたいのかで時間を消費しないようにしてください。
2 分の任務の明確で 20 分あるいは 200 分の時間を節約することができます。
- B：第二対策法はインターネットをするときは合理的に時間を抑えることです。
何をするのか、時間はどれくらいかかるのかを考えます。
腕時計や目覚まし時計などで時間を設定します。
そして、パソコンでセルフタイマーを設定します。
このようなことはインターネットをする時間を抑えることができ、長い時間インターネットをすることやインターネットに病み付きになるという問題もなくなります。

C：第三対策法は時間がきた時に必ず自分の思惟を止めることだと思います。

ネットをするという任務を全うするとき、あなたが遊び続ける場合は、必ず瀬戸際で踏みとどまりましょう。

D：第四対策法は両親が自分を助けるために注意してくれることです。

これは意志が弱い人に準備が必要です。

インターネットをする上で自分を抑えることができないとき、これが最後の方法だと思います

子どもたちは対策法について、自らの経験と繋げていきながら考えている。子どもたちはインターネットを利用する時間がインターネットの依存症に関係していると考えていることが分かる。特に第四対策法については、多くの生徒が共感していた。

【 “インターネットを健康的に使用する歌” の作成 】

授業の最後に王先生は子どもたちにインターネットを健康的に利用するための歌を作らせた。これまでに学習したことを通して子どもたちはグループに分かれて歌を作っていく。また王先生はこの歌作りの中で国文教育（日本の国語にあたるもの）も取り入れており、教科間の連携をねたっていたことが分かる。授業の後半ということもあり子どもたちには十分な時間で歌を作ることはできなかったが、子どもたちは短い時間の中でこれまでの授業を振り返りながら歌を作成していた。どの歌も素晴らしかったのか、王先生は子どもたちに幾度となく称賛の言葉を与えていた。

おわりに

現在、中国教育学部が作った新課程には「道徳は生活方面から述べるべきであり、生活から離れたら道徳教育の意味がなくなってしまう」と提唱している。今回 40 分の授業で王先生はグループ活動を行うなど常に学生たちが主体となるような授業を展開していた。子どもたちは王先生の実話や自らの経験を通してインターネットのメリットやデメリットに関して考え理解していった。インターネットに関してどのように利用することが正しいのか再認識する機会となった。また、教師が自ら答えを導くのではなく授業の中で子どもたちが自らの意見を交流し合い、異なる考えをぶつけ合わせることで、子どもたちが相互影響し、創造し、学習していた様子が見受けられた。

クラスの事前調査の結果からも出ていたように、小学生の時点で既にインターネットをすることを減少したり、止めたりすることができないインターネット依存症の子がいる。このようなインターネット依存症の子どもをできるだけ早い段階で助けていくためにもインターネットの正しい使用方法や依存症の対策を小学生のうちから指導していくことは意味があることであり、現代社会における道徳教育の一環としても重要な単元であったと考えられる。